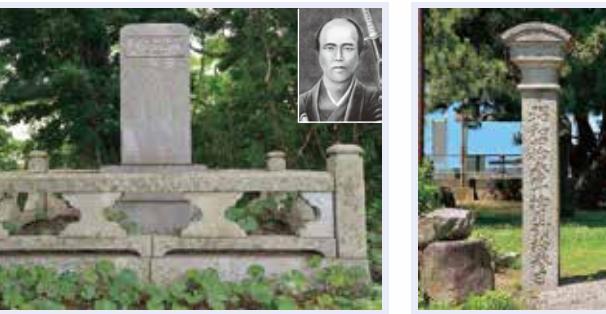


# 「四境の役・大島口の戦い」戦跡&史跡ガイドマップ



① 德正寺(東三蒲)

四境の役の際、この寺の住職であった田村探道は第二奇兵隊に属していた。常に隊員の士気高揚に努め、戦いでは身を挺して常に中心であった。同寺には、探道愛用の陣笠や御所入行許可書をはじめ隊士の書簡など、彼が第二奇兵隊書記として活躍したことを物語る貴重な資料がたくさん残されている。近くには狙撃訓練場跡(神取神社)もある。



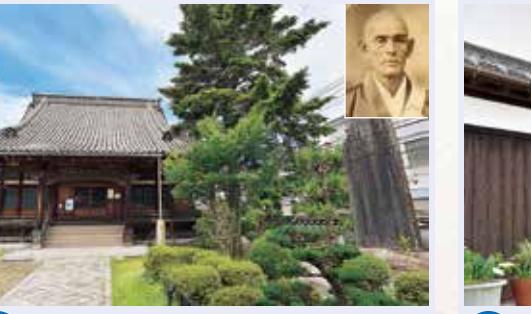
② 世良修蔵招魂碑(棕野)

世良修蔵は、兵学や語学(英語)にも卓越し、四国遍路の大先達、中司茂兵衛とは従兄弟に当たる。明治15年(1882)、世良の生まれ故郷である棕野の久保山(世良家墓所)に建てられた招魂碑。これに刻まれている天地同久の碑文は、陸軍中将兼参議内務卿議定官山田頴義、篆額、内閣権少書記官正七位岡守節書、常陸 加藤熙撰である。



③ 明治維新百年記念公園(久賀)

園内には、明治維新の大事業に身を持って尽くした方々の4つの顕彰碑(精忠不朽、竹中甚助ほか18名、秋元三郎ほか16名、安屋伊藤惣兵衛)がある。精忠不朽の碑は毛利元徳の書による。大洲鉄然が後世に伝えるため郷友と語って建てたもので、門柱は元大島郡役所の石柱を移築した由緒あるものである。



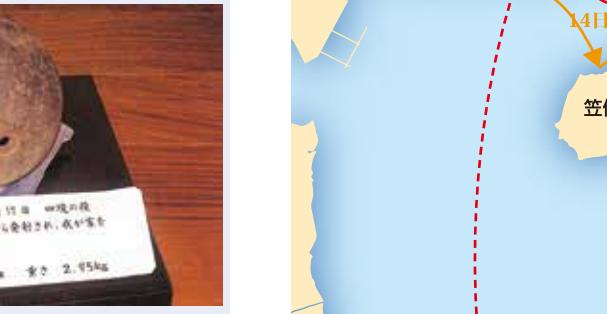
④ 覚法寺(久賀)

大洲鉄然の生誕地で、山門は久賀古町の中村鶴作、彫刻は地元西方の門井耕雲の作といわれる。本堂の「崇徳興仁」の額は、五撰家・九条通孝公の筆である。同寺には、桂小五郎や勝海舟など維新期に活躍した人物にまつわる資料も数多く残され、鉄然の交友関係の広さがうかがえる。所蔵する資料の豊富さから私設歴史民俗資料館と言って過言ではない。



⑤ 伊藤惣兵衛(藤屋)(久賀)

代々庄屋を務めた伊藤家(藤屋)の屋敷で、月性や大洲鉄然がよく会談で用いた。四境の役で久賀の時は焼け野原にならったが、酒屋であった藤屋は両軍に酒を振る舞つたことから焼き討ちを逃れ、多くの貴重な財産が残ったといい。津原川沿いには白壁の堂々とした旧家が多く、町文化が色濃く残っている。明治維新記念公園内には、当時の当主で、維新に功績があった惣兵衛の顕彰碑も建立されている。



⑥ 村田邸(砲弾貫通) (久賀)

幕府軍艦(富士山丸)から発射された砲弾が、住居の壁と大梁を貫き裏側の田畑に着弾した。大梁の大きな傷跡は現在もそのまま残され、砲弾の威力の凄さを物語っている。幕府軍が敗退するとき火を放ち、当家から宗光の住吉神社が見えるほど焼失したと云われている。



⑦ 八山田維新墓地(久賀)

軍艦4隻小舟多数により幕府軍約1,000人が久賀村宗光より上陸。同時に安下庄へも軍艦2隻を主に松山藩軍約1,500人が上陸して大島を占領。長州軍は第二奇兵隊、浩武隊、大島兵などの諸隊で応戦9日間の激戦の末、幕府軍を海上に潰走させた。この戦闘で亡くなった18名とその他の維新ゆかりの人々5名、合計23柱の墓碑があり、招魂社として祀られている。



⑧ 横崎剛十郎生誕地(久賀)

横崎剛十郎生誕地は、小川の清流がせせらぐ山峡にある。その奥には閑静な隠れ穴があり、そこで真武隊再結成の秘密会談が行われた。剛十郎が、白井小助や大島郡内の志士たちの案内役となり、再結成に必要な資金、再結成後の本陣場所などを検討した當時が想われる。彼の顕彰碑は山口県大島町舍前に建立されている。



⑨ 帯石觀音(普門寺)(日向)

長州軍の守備隊(村上河内)がこの寺に本陣を置いていたが、松山藩軍の安下庄上陸後は、松山藩軍と久賀の幕府軍との連絡拠点となった。6月15日に長州軍と幕府軍の戦いの場となり、その後焼失した。火を放ったのは幕府軍・長州軍の二説ありどちらかは不明。境内には、安産祈願の帶石觀音や奉納された宝物、村上水軍未裔墓碑などがある。



⑩ 浄西寺(油宇)

慶応2年(1866)6月8日午前7時頃、幕府軍艦が油宇を砲撃した際、砲弾の一つが浄西寺の石垣を直撃した。石垣にはその時の彈痕が今も残る。地元には、この時、農夫の嫁「せん」が大砲の音に驚き幼子を背負い飛び出したところ、地響きとともに砲弾が炸裂し爆死したという話を伝わっている。砲撃の後、上陸した幕府軍は油宇から伊保田に進み、地図や旗指し物を奪って引き揚げたといい。



⑪ 快念寺(西安下庄)

松山藩軍は三ツ松に上陸し、この地の守備隊村上鬼之助との甲の山での銃撃戦で、この寺に陣屋を置いた。この戦いで安下庄の町は、1,410軒のうち628軒が焼失したといい。長州軍は、制高作戦によってこの地での戦いを有利に進めている。



⑫ 三ツ石古戦場(嘉納山山頂付近)

四境の役の際、松山藩軍と長州軍(第二奇兵隊、浩武隊等)が激突した古戦場で、この高地をめぐって激しい攻防戦が繰り広げられた。長州軍は、制高作戦によってこの地での戦いを有利に進めている。



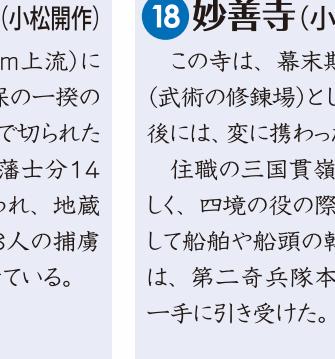
⑬ 護國団陣跡(西安下庄)

僧侶たちによって結成された護国団は、松山藩軍を撃退した16日、大江屋周辺宅を陣屋として使用した。同宅跡には、この事実を後世に伝えるため、昭和55年(1980)大元真一氏によって建立された石碑がある。陣跡は高所にあり、松山藩軍が上陸した甲の山や三ツ松を眼下に安下庄湾を一望できる絶景場所である。



⑭ 四境の役大島口戦跡碑(源明峰)

16日の激戦地の一つであり、大木や大石を落とすなど島民の活躍のあった旧源明峰には、四境の戦いで、6月16日、久賀宗光への幕府軍の上陸戦際、獅子奮迅の活躍を見せたが、敵弾を受け25歳の若さで戦死した。源明峰から嘉納山へ続く歩道の途中に多島美を望める絶景スポットがある。



⑮ 大谷周乗の墓(照林寺)(戸田)

大谷周乗は、大谷八郎と名を変えて義勇隊に入り、その後、護国団の器械方となつた。大島の戦いでは、6月16日、久賀宗光への幕府軍の上陸戦際、獅子奮迅の活躍を見せたが、敵弾を受け25歳の若さで戦死した。照林寺境内に墓所があり、八田山招魂場にも合祀されている。



⑯ 妙善寺(東屋代)

この寺は、幕末期には寺領の一部を英武場(武術の修練場)として提供し、「蛤御門の変」後には、変に携わった志士たちを招きかねた。住職の三国貴嶽は、大島海岸の事情に詳しく、四境の役の際、第二奇兵隊小荷駄役として船舶や船頭の斡旋に尽力した。戦いの後は、第二奇兵隊本隊渡海後の島内の守りを一手に引き受けた。